

## 「口腔外科疾患の治療における病診・医療連携」

## 第2回

顎変形症、  
咬合異常における連携

大分大学医学部附属病院歯科口腔外科 河野憲司



顎変形症 (jaw deformities) は上下顎骨の大きさと位置関係の異常、上下顎骨の変形などによる、主に下顔面と中顔面の形態異常を示す病態です。一方、頭蓋には頭蓋骨縫合早期癒合症のような頭蓋～中顔面の高度の形態異常を生じる疾患があります。これらはまとめて頭蓋顔面変形症 (craniofacial deformities/anomalies) の範疇に属する疾患です。

通常、歯科口腔外科では上下顎骨に限局する変形症を治療対象としますが、上下顎骨の異常に加えて、さらに頭蓋骨に異常がある場合や高度な顔面非対称では、形成外科など医科との連携が必要になります。当然、咬合異常に関して矯正歯科医も治療に参加することになります。

わたしが留学したカリフォルニア大学サンフランシスコ校 (UCSF) の付属病院には頭蓋顔面変形症センター (Center for Craniofacial Anomalies) という、口腔外科医、矯正歯科医、形成外科医、脳外科医、小児科医など14部署のメンバーがチームを作って治療にあたる診療室が設置されていました。写真1はそのセンターのメンバー表です。興味深いことに、センター長は矯正歯科の教授です。頭蓋・顔面・顎変形症の治療において歯科と医科を繋ぐ架け橋が矯正歯科医であることを感じさせます。残念ながら、これほど歯科と医科が綿密に連携した変形症治療チームは日本ではあまり見られないのが現状です。

さて当科の話しをしましょう。私たちの領域では主に中顔面～下顔面に変形を認める患者 (つまり顎変形症) が治療対象ですので、口腔外科医と矯正歯科医が治療の中心になります。当科には矯正歯科医は在籍していませんので、顎変形症や咬

合異常の治療にあたっては、大学外の矯正歯科医院と連携をとっています。従って顎変形症患者の当科への受診経路は、1) 矯正歯科医院からの外科矯正手術の依頼で受診する場合、2) 一般歯科医院や医科から顎変形症治療の依頼で受診する場合などがあります。2)、3) のケースでは、術前・術後の矯正治療は当科から矯正歯科医院へ依頼することになります。写真2は矯正歯科医との連携で治療を行なった下顎前突症の症例です。密接な連携のもとに計画的に治療を進めることで、適切な咬合状態を獲得できます。さらに口唇・口蓋裂児にしばしば見られる上顎劣成長や歯列不整についても、矯正歯科医院に矯正治療を依頼します。

顎変形症に対する外科矯正治療は、障害者自立支援法に基づき指定自立支援医療機関に認定された矯正歯科医院と病院歯科口腔外科が連携して行なうことで、外科矯正手術と術前・術後の矯正治療の費用は医療保険が適応されます。顎外科矯正治療は、従来からの手術法に加えて、骨延長術などの新しい治療法も広く実施され、治療法が確立されています。病院歯科口腔外科、一般歯科医院、矯正歯科医院が密接に連携することで、顎変形症患者にとって治療を受ける機会をさらに広げることが出来ます。顎変形症が機能的障害だけでなく、しばしば心理面でのマイナス要因になっていることを考えると、外科矯正治療に関する情報を広く提供し、適切なコンサルテーションを行うことは患者にとって大いに意味があることと考えます。

**CENTER FOR CRANIOFACIAL ANOMALIES**  
University of California, San Francisco  
513 Parnassus Avenue, S-747  
San Francisco, CA 94143-0442  
Telephone Number: (+1) 476-2271

Karin Vargervik, DDS, Director	Anne Boeckelheide, RN, MSN, PNP, Nurse Coordinator	
<b>AUDIOLOGY</b> Toni L. Will, MSPA Robert W. Sweetow, PhD	<b>ORTHODONTICS</b> Karin Vargervik, DDS Britta S. Tomer, DDS	<b>PEDIATRIC NEUROSURGERY</b> Michael S. Edwards, MD Sam Ciricillo, MD
<b>CLINICAL SOCIAL SERVICE</b> Doris Ordway, MSW, LCSW	<b>OTOLARYNGOLOGY</b> Thomas L. Engel, MD Robert K. Jackler, MD Michael J. Lanser, MD Anil Lalwani, MD	<b>PEDIATRICS and GENETICS</b> Mahin Golabi, MD, MPH Robin Imagire, MS
<b>DERMATOLOGY</b> Ilona Frieden, MD	<b>PEDIATRIC DENTISTRY</b> Raymond Braham, BDS, MS Dorothy Pang, DDS, MS	<b>PLASTIC and RECONSTRUCTIVE SURGERY</b> Stephen J. Mathes, MD Douglas K. Ousterhout, DDS, MD William Y. Hoffman, MD
<b>NURSING</b> Anne Boeckelheide, RN, MSN, PNP	<b>PEDIATRIC NEURO-OPTHALMOLOGY</b> Creig Hoyt, MD	<b>PROSTHODONTICS</b> Arun B. Sharma, BDS, MSc
<b>ORAL and MAXILLOFACIAL SURGERY</b> Gerard Kearns, DDS, MD M. Anthony Pogrel, DDS, MD	<b>SPEECH PATHOLOGY</b> Sally J. Peterson-Falzone, PhD	

写真1  
UCSF頭蓋顔面変形症センターのメンバー表

口腔外科医、矯正歯科医、形成外科医など14部署のメンバーから構成されている。

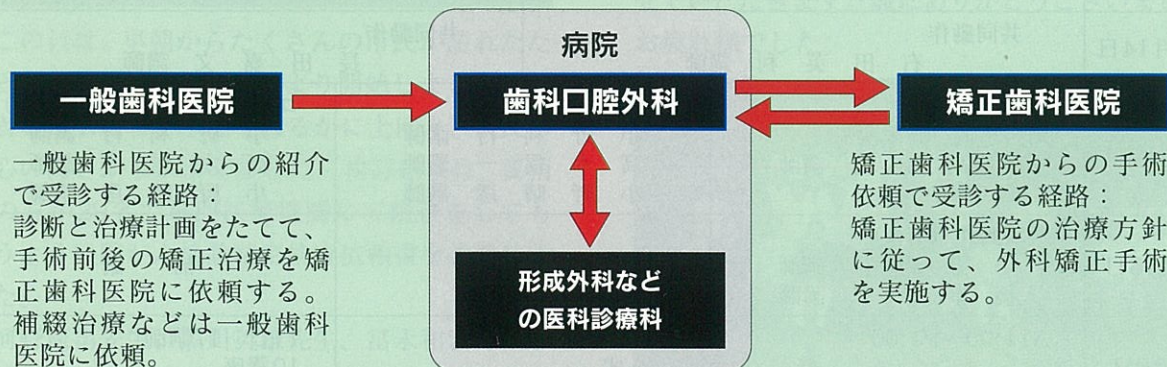


写真2  
矯正歯科医院との連携で外科矯正治療を行った下顎前突症例

密接な連携のもとに計画的に治療を進めることで、適切な咬合状態を獲得できる。

左：骨切り術前、右：術後

当科における顎変形症患者の受診経路



困難症例は形成外科などと連携